

葛巻町青少年育成ネットワーク

- 「
テ
ー
マ
」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動の様子



『 地域と親子をつなぐミニサッカー 』

～青少年健全育成ミニサッカー大会による地域の絆づくり～

1 地域の教育課題

テレビゲームやパソコンの普及など生活環境の変化が、体を動かす機会を減少させ、運動不足による生活習慣病が子どもまで広がっている。

また、群れ集団より個人で過ごす時間が増え、地域の友達や大人と関わり合う機会が減少している傾向にある。

2 役割分担と年間の計画

○課題解決のためのそれぞれの役割

<子ども>

自ら参画する意識を高く持ち、意欲的に取り組む。

<保護者>

参加の奨励、親子による参加。

<先生>

参加の奨励と支援、担当教員等の積極的な関わり。

<地域>

子ども達の主体的活動への支援、中高生による支援。

<行政>

意識啓発、情報提供や連絡調整。

○課題解決のための年間の取組

5月下旬～6月下旬

・各地域でチームを構成し、それぞれの学校の校庭や地域の広場において練習。

・保護者や教員、地域の中高生が指導。

6月下旬

・葛巻町青少年健全育成ミニサッカー大会

3 取組の様子

町内 35 自治会には子ども達の健やかな成長を世話する「青少年健全育成会」が設けられており、季節ごとや長期休業中にそれぞれ地域独自の活動を展開している。

なかでも、小学生が自治会単位でチームを構成して参加する町主催の「青少年健全育成ミニサッカー大会」は、平成 24 年度で 29 回を数え、町内のほとんどの小学生が参加している。

各地区の青少年健全育成会では、大会に向けて約一ヶ月前からそれぞれの学校の校庭や地域の広場で練習を始める。地域の大人や中高生が指導者となり、地域ぐるみで子ども達を指導し、町中がサッカー練習の声で活気を帯びる。子ども達は、優勝旗や金メダルが欲しくてたまらないのと、練習後や大会後の焼き肉会が楽しみで熱心に意欲的に取り組んでいる。何より世話する大人たちが子ども達以上に楽しみながら活動を行っている。

地域のなかで多くの友達や大人と関わり合うミニサッカー大会は、着実に地域の絆を深め、また、スポーツする楽しさを皆で共有することで、友達と運動したり、地域のスポーツ行事へ参加したりするなど、運動する機会の増加にもつながっている。

4 課題解決を判断する評価の方法

毎年提出される各地区青少年育成会の活動成果や問題点等の報告書により判断。